

最後に、いろいろお世話になった香村先生、センターの職員、学生の方々にお礼申し上げます。

採集された海藻；

緑藻：ヒトエグサ、アナアオサ、ヒラアオノリ、ウキオリソウ、ミドリゲ、キツネノオ、アオモグサ、キッコウグサ、ムクキッコウグサ、マガタマモ、ミズタマ、フデノホ、ビャクシンヅタ、センナリヅタ、ヨレヅタ、コケイワヅタ、マユハキモ、ウチワサボテング
褐藻：グンセンクロガシラ、イトアミジ、アミジグ

サ、シワヤハズ、ハイオオギ、ウスバベニウチワ、オキナワモズク、ムラチドリ、カゴメノリ、フクロノリ、ラッパモク、ウミトラノオ、アツバモク

紅藻：ハイコナハダ、ピロウドガラガラ、ガラガラ、シマベニモヅク、カギケノリ、ホソバナミノハナ、ガラガラモドキ、キリンサイ、ベニゴウシ、ウブゲグサ、マクリ、トゲノリ、コケモドキ、パピラソゾ、カタソゾ、ナンカイソゾ

(小亀安代：北大・理・植物)

ニ ュ ー ス

第15回国際植物科学会議（東京）—XV International Botanical Congress, Tokyo—

における藻類関係シンポジウムのお知らせ

上記国際会議のあらまは first circular その他でご存知と思います。ここでは会議で取り上げられる藻類関係のシンポジウムについて、これまでの経緯と進行状況をお知らせします。

同会議の組織委員会・プログラム委員（河野昭一、京大・理・植）より藻類関係のシンポジウムの立案・企画・実施の世話人として市村輝宜（東大・応微研）と原慶明（筑波大・生物科学系）が指名され、連絡調整の任務を行なってきました。日本藻類学会会長と連絡をとり、シンポジウムの立案・企画を担当する実務委員を選出し、その方々にシンポジウムの立案企画にお骨折りいただき、以下のような具体案が出来上りました。現在、実務担当者がコンビーナーと相談しながら、講演者の依頼と演題の検討を進めています。

藻類学ないしは藻類として正式に取り上げられたシンポジウム（講演時間は1シンポジウム当り2時間30分で、講演者の人数には制限はありません）は現在4件です。会議全体は8つの柱（1st circular 参照）で構成され、その1つ、Systematics and Evolution of Algae and Prokaryotes のセッション（全部で13セッション）が設けられ、そこに取り上げられています。なお他のセッションで藻類関係のシンポジウムが採択されているかどうかは不明です。各シンポジウムの題目とコンビーナー及び実務担当者（ローカル・コンビーナーを

兼ねる）を紹介します。

① Ultrastructure, Molecular Biology and Systematic Relationships of the Green Algae.

Convener: G. L. Floyd (Dept. of Biology, Ohio St. Univ., USA)

実務担当：渡辺 信（富山大・教育・生）

② Taxonomy and Evolutionary Biology of Prokaryotic Algae.

Convener: J. Komarek (Dept. of Hydrobiol., Inst. of Bot., CSAU, Czechoslovakia)

実務担当：渡辺真之（国立科学博・植物）、渡辺信（国立環境研・地球環境）

③ Biology and Systematics of the Chromophyte Algae.

Convener: D. G. Muller (Fach. Biol., Univ. Konstanz, Germany)

実務担当：川井浩史（北大・理・植）

④ Population Differentiation, Species Relationships and Phylogeny of Rhodophyta.

Convener: D. Guiry (Dept. of Botany, Univ. College, Galway, Ireland)

実務担当：増田道夫（北大・理・植）

各シンポジウムにおける講演者と演題は正式決定後、お知らせ致します。

文責：原慶明（筑波大・生物科学系）